
bokura19

千祈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

bokura19

【Nコード】

N4647C

【作者名】

千祈

【あらすじ】

海辺の家で繰り広げられる瞳の色以外そっくりな双子の話。

第巻話 双子

君は僕に聞いたの。

「生きてるの？」

そうしたら僕は逆に返したの。

「じゃあ、生きてたらどうなるの？」

君は目を瞠って無表情になった。

「生きてるとしたら君は誰だい？」

僕を丸々否定するような言葉、思わず耳を疑った。

「じゃあ、ねえ？君は僕を誰だと思えますか？」

君の深海色の瞳が細まった気がした。

「君は君の偽物だよ。」

偽物レフリカということは作り物と君は知っているのだろうか？

「その黄金きんの髪も、その深紅ダークレッドの瞳も全部、絡繰おもちゃだよ。」

暗示のように君は囁く。

でも僕は何故か微笑を浮かべた。

「名前は？君と僕の、名前くらいあるでしょ。」

「言っただろう？君は君の偽物なんだよ。名前なんて……。」

「だったら、君の。」

口唇が少し動いた気がした。小さい声でうまく聞こえない。

「聞こえないよ。何、ちゃんと言って。」

「深海、深い海。」

「やっぱりね、僕を作ったのは君だ。」

僕は君に作られた偽物。

誰の偽物かは知らない。

「名前を、呼んでよ。君が作ったんだ。」

「よく分かったね。さすが僕の作った偽物。」

にっこりと微笑み君は言う。

「僕は、君の偽者でしょ……？」

そこまで言って不意に顔を見合わせた。

「もつやめおつよ。」

「ん、後ちよつとで終わりなのに……。」

深海は物足りなさそうに唇を窄め文句を言う。

「だって。僕、偽者レフリカの役なんだよ?」

「僕だって最終的に偽者レフリカって終り方だったのに。」

そう言い合ってニツコリとそっくりな顔で笑った。

「深空海みそりへ行こうか。」

深い青い眼で窓の外を眺めて言う。

「ん、いいよ。」

波は穏やかで心地よい風も吹いている。

海の青さと広がる夕焼けは自分達の瞳とまったく違う輝きを放っている。

部屋の中で意味のない二人だけの劇をやっても時間の無駄だった。

「僕らは双子だもんね。偽者レフリカなんかじゃなくて。」

握った手は暖かい。

僕らは、生きているんだ。

第卅話 双子（後書き）

騙されてくれたらなー、と読んだ人怒ってますよね……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4647c/>

bokura19

2010年10月28日03時34分発行